科目名	地域・在宅看護概論	対象学年・時期	1年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
講義概要	ディプロマポリシー3,4に基づく。日本の少子化と超高齢・多死社会においての支援体制は、「共助」「公助」に頼ることなく「自助」「互助」に比重が置かれることとなる。病院中心、医療従事者主導の医療の仕組みが見直され、地域で「（看護が）ともに在る」ことを学ぶことが重要視されている。 本科目では、基礎看護学概論の知識を想起し、「一生を地域で健康に暮らすための支え合い」を考え、地域で暮らす人々を支えるための看護者の役割を学ぶ。地域・在宅看護は、あらゆる年齢・疾患・環境の療養者を対象とする。「暮らす」ことについて考え、理解するところから対象の理解に繋げる。また、地域・在宅看護の概念や役割・機能、対象について学び対象に必要な支援を考える力を身につける。		
講義形態	講義、演習(グループワーク)		
学習目標	1. 人間は暮らしのなかで健康に対する希望をもっていることが理解できる. ２．地域・在宅看護が推進される社会的背景が理解できる ３．地域・在宅看護の変遷を述べることができる ４．対象の多様性をふまえたQOL向上の支援が考えられる		
学習内容 (授業計画)	1回目：ガイダンス、「暮らす」とは①　…　グループワーク 2回目：「暮らす」とは②　人間と暮らしを構成するもの 3回目：地域・在宅看護と地域包括ケアシステム 4回目：地域・在宅看護の役割・機能　　酒田市の動向を見てみよう　…　グループワーク 5回目：地域・在宅における対象と家族、取り巻く人々の支援 6回目：在宅看護と訪問看護① 7回目：在宅看護と訪問看護② 8回目：終講試験		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	当該箇所をテキストで読み授業に臨んでください。 その他の事前学習は必要時授業中にお伝えします。		
評価基準と 評価方法	筆記試験		
備考	自分の身近な物事に興味をもち、「暮らす」ということを見つめてみましょう。 グループワークでは積極的に取り組み、たくさん自分の考えを相手に伝え、相手の考えを聞きましょう。		